

# これまでの考え方に基づく 歯科医師数の需給推計

歯科医師数の需要（１）と供給（２）については、下記により推計

（１）必要歯科医師数（①＋②）

①歯科診療所に従事する歯科医師

②歯科診療所以外に従事する歯科医師

（２）供給歯科医師数（③＋④）

③現役の歯科医師数

④新規参入歯科医師数

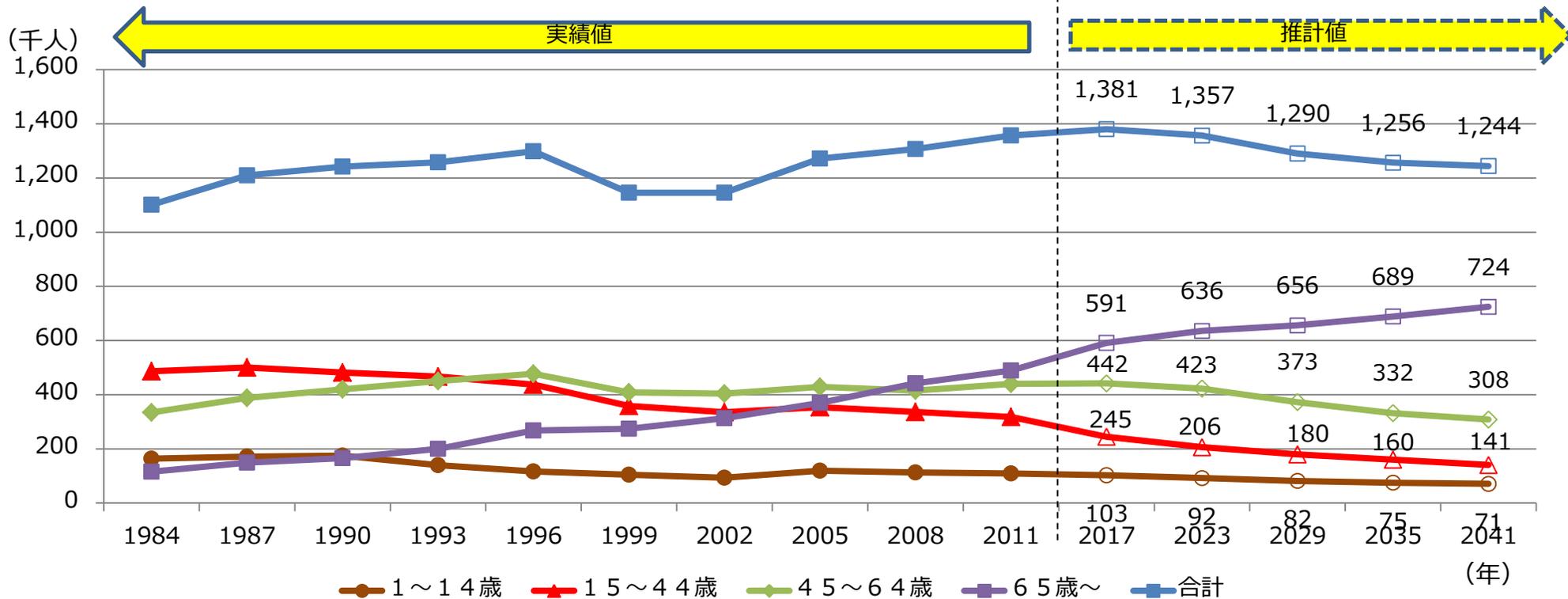
## (1) 必要歯科医師数

### ① 歯科診療所に従事する歯科医師

# 歯科診療所に従事する歯科医師の算出に必要な要素 1

## ＜歯科診療所推計患者数（1日）＞

- 患者数については、3年ごとに実施される患者調査の受療率及び6年ごとに実施される歯科疾患実態調査の歯科疾患の罹患状況等の傾向を基に将来予測値を算出。これに「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」における出生中位推計を用いて推計値を算出。
- 将来予測は小児のう蝕減少や高齢者の歯の本数増加によって想定される受療率の変化も加味。
  - ・ 1～14歳、45～64歳：受療率は変化しない。
  - ・ 15～44歳：う蝕ニーズ量の減少に伴い受療率は減少
  - ・ 65歳以上：1人あたりの現在歯数増加に伴い受療率は向上



# 歯科診療所に従事する歯科医師の算出に必要な要素 2

## <歯科診療所に従事する歯科医師 1 人 1 日あたり患者数>

- 歯科診療所に従事する歯科医師 1 人 1 日あたり患者数については、
  - ①平成20年患者調査及び医療施設調査（※平成23年度厚生労働科学研究事業で用いた数値と同様）
  - ②H27NDB及びH26医療施設調査
  - ③日本歯科医師会の歯科医業経営実態調査
 の3パターンで算出。
- 1 歯科診療所あたり患者数が横ばいである近年の傾向を踏まえ、この数値は固定。

	算出根拠となるデータ	算出方法	歯科診療所に従事する 歯科医師 1 人 1 日あたり患者数
①	患者調査 (H20) 医療施設調査 (H20)	個票データ分析によって得られた 1 歯科診療所あたりの患者数の幾何平均値	14.1人
②	NDBデータ (H27) 医療施設調査 (H26)	1 歯科診療所の歯科医師 1 人 1 月あたり患者数を算出し、それを医療施設調査から算出される診療実日数で除した値	16.5人
③	日本歯科医師会・歯科医業経営 実態調査 (H27)	個票データ分析によって得られた 1 歯科診療所あたりの患者数の平均値	17.4人

<参 考>	2010	2011	2012	2013	2014
<u>1 歯科診療所</u> 1 日あたり患者数 (人)	23.7	24.1	23.8	23.9	24.1

注：上記は概算医療費データベース（メディアス）により推計。公費負担分も含んでいる。

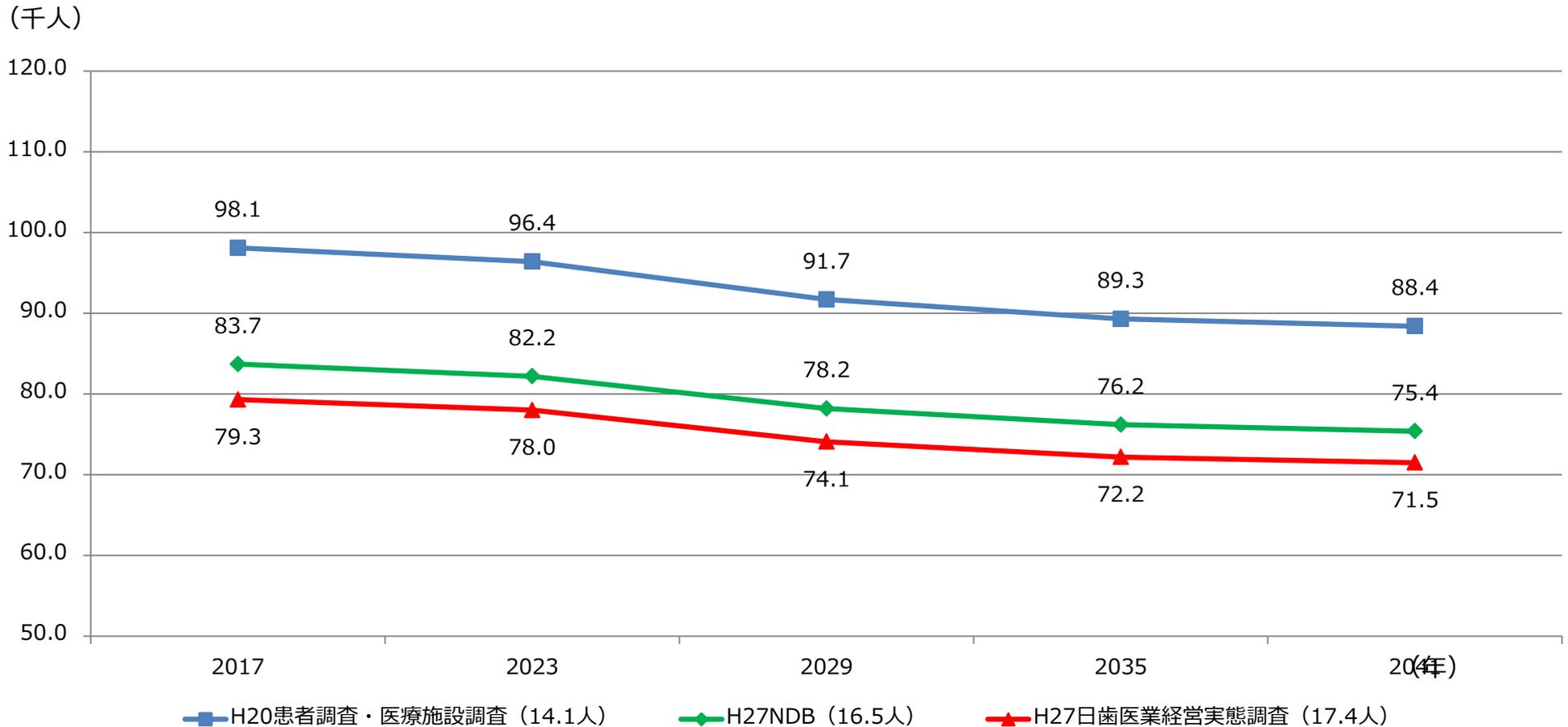
# 歯科診療所の必要歯科医師数（推計値）

➤ 歯科診療所の必要歯科医師数は下記により算出。

歯科診療所推計患者数（1日）／歯科診療所に従事する歯科医師1人1日あたり患者数

➤ 歯科診療所に従事する歯科医師1人1日あたり患者数を3パターンで算出した結果は下記のとおり。

➤ 歯科診療所の必要歯科医師数は異なるものの、いずれのパターンも現状に近い2017年から2041年にかけて減少。

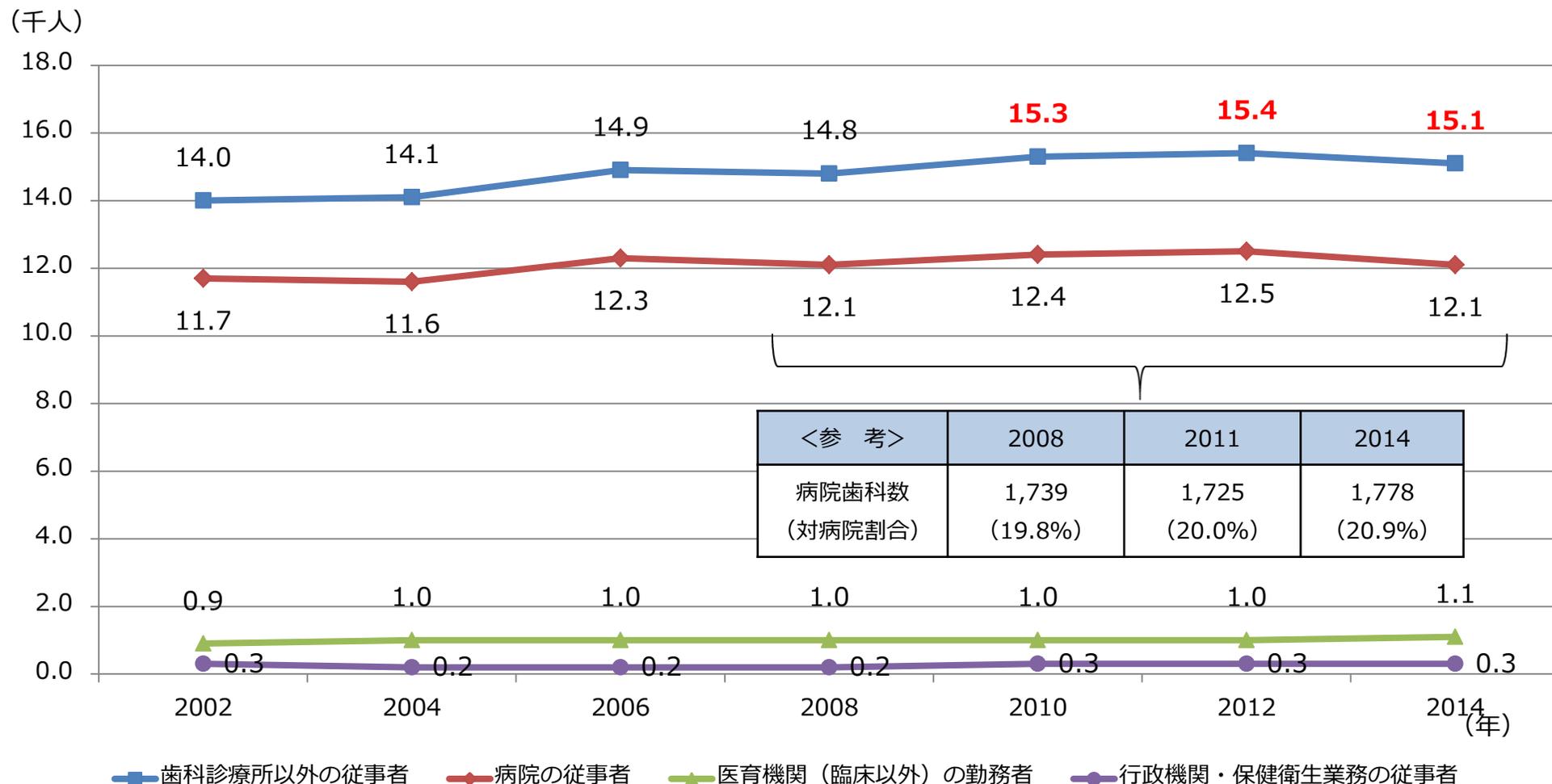


# (1) 必要歯科医師数

## ② 歯科診療所以外に従事する歯科医師

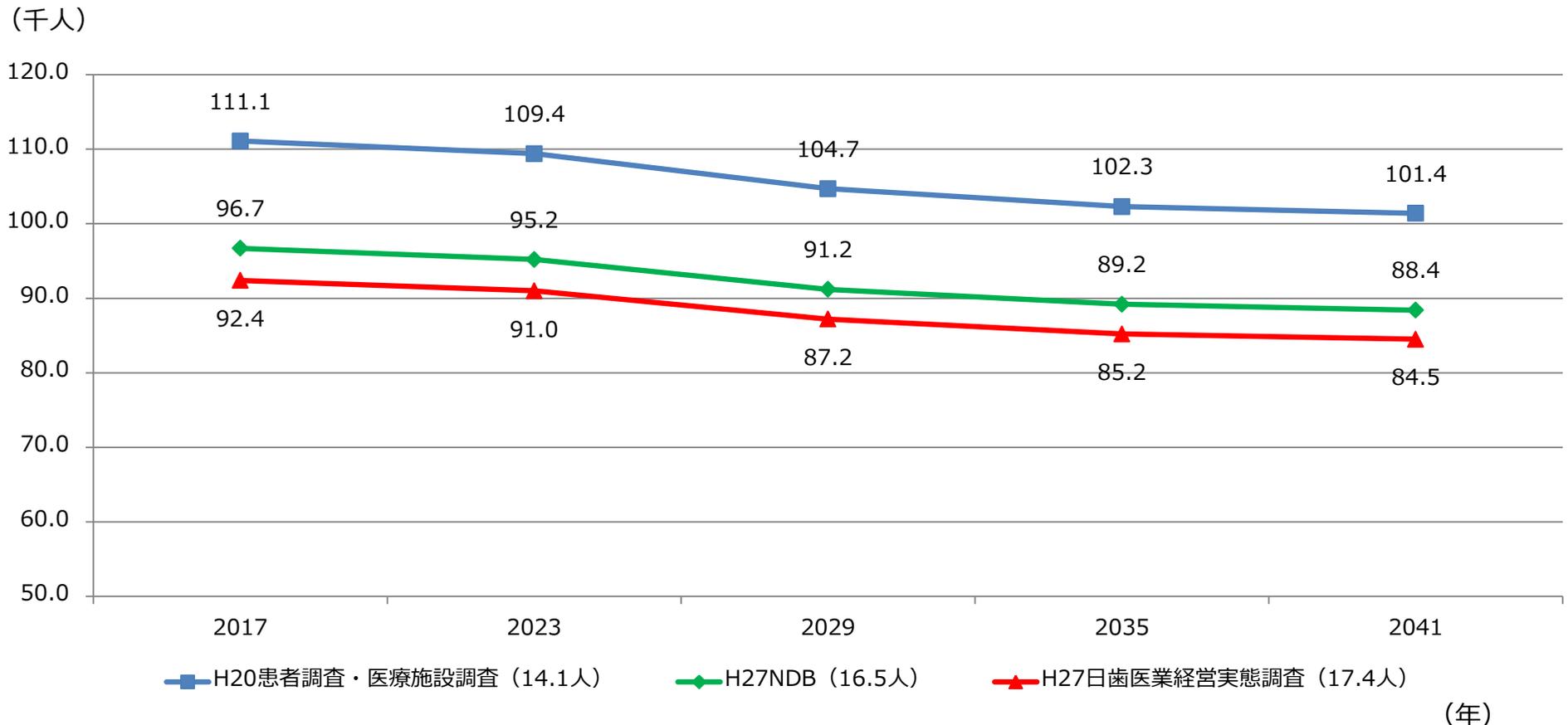
# 歯科診療所以外の必要歯科医師数（推計値）

➤ 歯科診療所以外に勤務する歯科医師については、主として病院で勤務しているが、歯科を標榜する病院（病院歯科）は近年あまり増えておらず、今後、病院を含めて歯科診療所以外で従事する歯科医師数が大きく増減することは考えにくいこと等を考慮し、歯科診療所以外の必要歯科医師数は15,000人で固定。



# 必要歯科医師数（推計値） 【歯科診療所＋歯科診療所以外】

- 歯科診療所に従事する歯科医師数と歯科診療所以外に従事する歯科医師数を足し合わせた必要歯科医師数（研修歯科医2,000名は除く）について、歯科診療所に従事する歯科医師1人1日あたり患者数を3パターンで算出した結果は下記のとおり。
- 必要歯科医師数について、いずれのパターンも現状に近い2017年から2041年にかけて減少。



## (2) 供給歯科医師数

③現役の歯科医師

④新規参入の歯科医師

# 供給歯科医師数の算出に必要とされる要素

➤ 現役の歯科医師数については、下記により算出。

推計生存歯科医師数（三師調査性・年齢別歯科医師総数×三師調査届出率【参考1】の逆数）

×推計稼働率（女性歯科医師は仕事量0.9を乗じる）【参考2】

➤ 新規参入歯科医師数は、直近の国家試験の合格者数から2,000人【参考3】で固定。

参考1：三師調査届出率

年齢階級	男性	女性
24歳	95%	90%
25～29歳	95%	90%
30～34歳	90%	75%
35～39歳	85%	70%
40～44歳	90%	75%
45～49歳	90%	80%
50～54歳	90%	80%
55～59歳	90%	75%
60～64歳	85%	70%
65～69歳	80%	65%
70～74歳	75%	60%
75～79歳	70%	55%
80～84歳	65%	45%
85歳以上	60%	40%

参考2：推計稼働率

年齢階級	男性	女性
24歳	100%	85%
25～29歳	100%	85%
30～34歳	100%	75%
35～39歳	100%	75%
40～44歳	100%	80%
45～49歳	100%	80%
50～54歳	100%	80%
55～59歳	100%	75%
60～64歳	85%	60%
65～69歳	80%	55%
70～74歳	75%	50%
75～79歳	65%	45%
80～84歳	55%	35%
85歳以上	45%	25%

参考3：国家試験合格者数

実施年	受験者数	合格者数
平成24年	3,326人	2,364人
平成25年	3,321人	2,366人
平成26年	3,200人	<b>2,025人</b>
平成27年	3,138人	<b>2,003人</b>
(参考) 平成28年	3,103人	1,973人

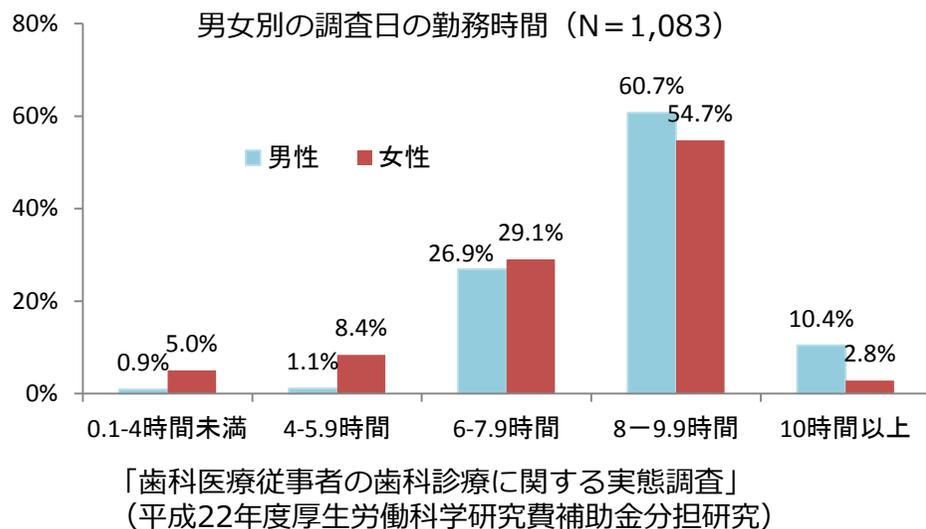


60歳未満  
：全員が稼働するものとし推計。  
女性に結婚・出産等による稼働率の低下を加味

60歳以上  
：三師調査で業務に従事している  
歯科医師数を推計生存歯科医師  
数で除す

# 現時点における女性歯科医師及び高齢歯科医師の仕事量の考え方

○女性歯科医師の仕事量（勤務時間）を男女で比較した結果、0.9という係数を引用。



・最頻値（8-9.9時間）で比較した場合は

性別	割合	男性 1 とした場合
男性	60.7%	1.0
女性	54.7%	<b>0.90</b>

・1人当たりの就業時間で比較した場合は

性別	就業時間	男性 1 とした場合
男性	7.55H	1.0
女性	6.74H	<b>0.89</b>

○他方、高齢歯科医師の仕事量（勤務時間）を世代別で比較した結果、他世代と変わらず。

世代別の歯科医師の勤務時間（N = 1,323）

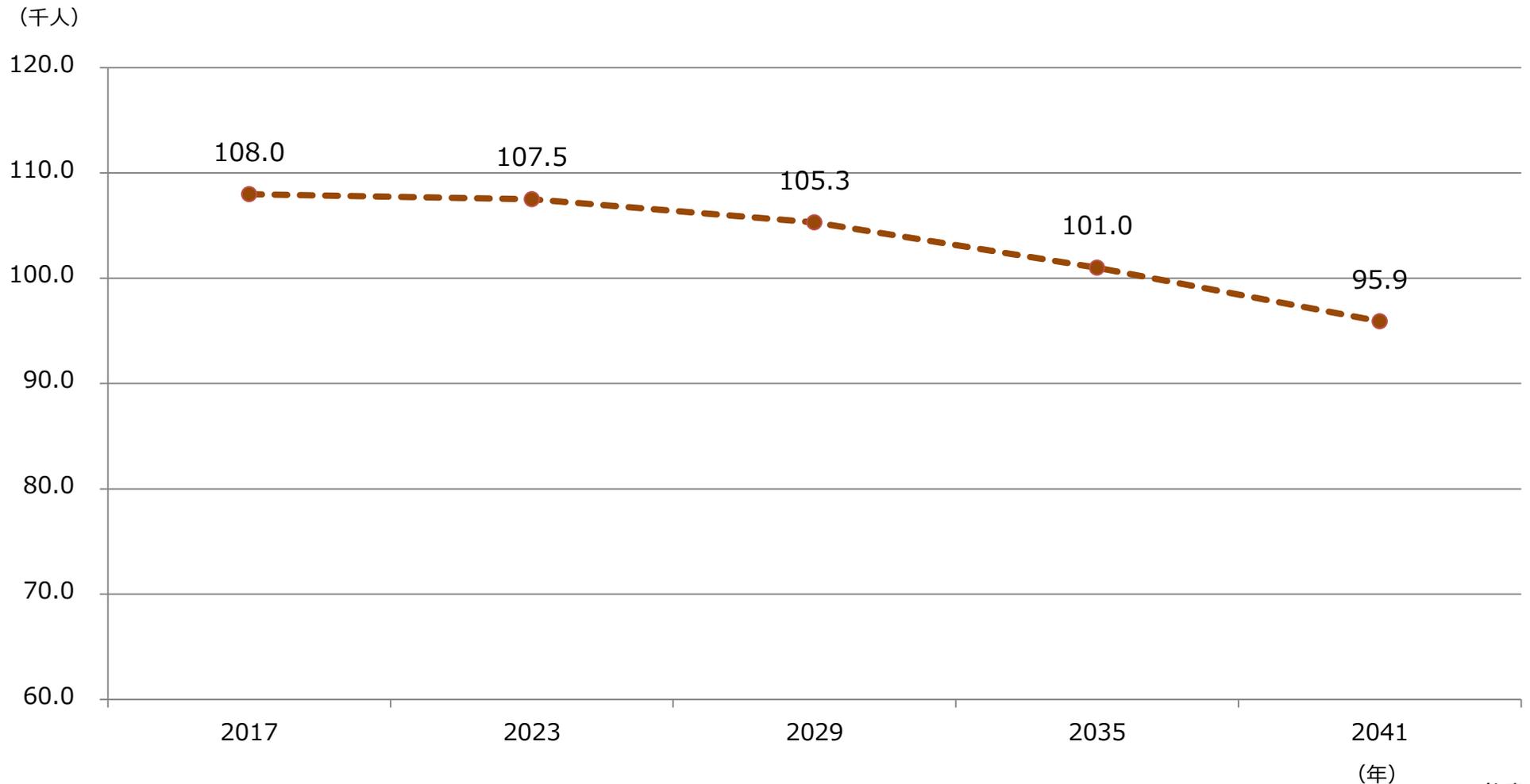
	40歳未満	40-65歳未満	65歳以上
勤務時間	7.8±1.3	8.0±1.5	<b>7.8±1.6</b>

「歯科医療従事者の歯科診療に関する実態調査」（平成22年度厚生労働科学研究費補助金分担研究）

○これらの仕事量については、今後関係機関を通じて調査を行い再検証を行う。

# 供給歯科医師数（推計値） 【現役歯科医師数＋新規参入歯科医師数】

- 現役の歯科医師と新規参入歯科医師を足し合わせた供給歯科医師数は下記のとおり。
- 供給歯科医師数は、現状に近い2017年から2041年にかけて減少。



# これまでの推計方法を踏まえた歯科医師数の需要と供給の関係

➤ 歯科診療所に従事する歯科医師 1 人 1 日あたり患者数を下記のパターンで推計した場合、

- ①14.1人（平成20年患者調査及び医療施設調査を基に算出）：**需要が+3,100人**
- ②16.5人（H27NDB及びH26医療施設調査を基に算出）：**供給が+11,300人**
- ③17.4人（H27日本歯科医師会の歯科医業経営実態調査を基に算出）：**供給が+15,600人**

